

## 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>★児童の「学び続ける力」の向上を目指す</p> <p>○個別最適な学び・協働的な学び、体験的な学びの充実</p> <p style="padding-left: 20px;">・授業力の6つの構成要素（OJTによる日常的な研修機会） ・教科における既習事項の有効な活用（基礎的な知識及び技能の活用）</p> <p>①授業展開においては、主体的・対話的に課題を解決することができる一単位時間や単元指導計画の設定をする。</p> <p>②既習事項が新たな学習課題や生活場面の中でどのように役に立つのかが実感できる工夫を心がける。（学びに向かう力、人間性の涵養）</p> <p>③既習事項の他教科との関連を図るカリキュラムマネジメントの実現を目指す。</p> <p>○ICT機器の活用 ○外国語授業の指導力向上 ○読書活動の充実 ○地域の自然環境や人的環境を生かした体験活動</p>

授業改善の重点
<p>○「学び続ける力」の育成に向けて、一斉・一律の授業から、一人一人が主体となって他者と協働しながら課題解決をする授業を目指す。</p> <p>○教師は、「教える」意識から、「導く」意識への転換をするべく、校内での研修を充実させる。</p> <p>○授業力の構成要素の一つである、評価に重点を置き、指導と評価の一体化とPDCAサイクルの確立を図る。</p> <p>○人権尊重の視点から、一人一人の考えを尊重しあえる学びの風土をつくり上げる。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<p>○漢字学習や小テスト、基本的な言語知識獲得のための授業を行い、文章の読み取りに生かす。</p> <p>○校内研究を通して、児童が読む力をさらに高めるとともに、自分の考えを進んで表現できる活動を充実させる。</p> <p>○学年に応じて、説明文の適切な読み方ができるように指導する。既習事項を確かめながら、児童自身が自分の身に付けるべき読み方を理解して学習に取り組めるようにする。</p> <p>○読書活動の充実を図り、読書に対する意欲を高める。</p>	<p>○ペアやグループでの活動を重視し、歌唱、楽器演奏や鑑賞などの課題を協働的に解決できるようにする。</p> <p>○音楽を聴いて感じたことや演奏の工夫などを自分なりの言葉で表現するなど、言語活動の充実を図る。</p>	<p>○「課題設定・情報収集・整理分析・まとめ、表現」のサイクルを重視して学習を構成し、その学び方を他教科にも広く生かせるよう取り組む。</p>	<p>○登場人物の心情を話し合うことを通して、ねらいとする道徳的価値に触れることができるようにする。</p> <p>○自分の生活を振り返り、自身の在り方を考える。</p>
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<p>○日頃の授業で、資料やグラフを読み取ることを意識した授業を行い、読み取る力を育てる。</p> <p>○体験活動から学んだこと、社会的現象や言語への理解の定着を図る。</p> <p>○グループやペアでの話し合いが活発になるように課題を吟味し、進んで表現しようとする力を高める。</p>	<p>○造形活動において作品や自分たちの活動をデジタルカメラやタブレット型端末で撮影するなど、ICT機器を活用することで、新たな発想や構想を生み出すための手立てとする。</p> <p>○様々な用具の使い方や材料に触れる機会を多くつくり、より多様で自由な発想が発揮できるようにする。</p>		
	算数科	家庭科		
	<p>○全学年において少人数展開の学習形態を維持し、基礎学力の底上げを図る。</p> <p>○計算ドリルやプリントを通し、基礎・基本的な知識・技能の徹底を図る。児童の実態を把握し、苦手な分野を集中して取り組ませる。</p> <p>○問題の内容理解を促すため、図や□を使った式で表すなど、解決までの道筋が分かるよう指導を工夫する。</p> <p>○どの単元でも、問題解決型学習を実施し、問題を自力解決し、協働的に解決するという過程から、主体的に取り組めるようにする。</p> <p>○どの単元でも協働的探究学習の形態を取り入れ、話し合いながら自分との相違や関連付けをしながら思考力を高める。</p>	<p>○健康で豊かな衣食住生活に関する課題を自ら解決する力を養い、協働的な活動を通して日常生活で実践的な工夫を生み出そうとする態度を育てる。</p>		
	理科	体育科		
	<p>○生命・地球の領域では、全単元を通して観察・実験を行い、実感を伴った理解を図る。また、映像を副教材として提示して、時間による変化を捉えられるようにする。</p> <p>○物質・エネルギーの領域では、発展的な学習として、実験などの活動を増やし、自然の事物・事象についての理解を深める。また、実験用具を整え、充実した学習ができるようにする。</p>	<p>○町田ボールをボールゲームの起点と位置付け、その他のゴール型(ゲーム)の楽しさを存分に味わわせ、児童の日常的な運動量の増加を目指す。</p> <p>○どの運動領域においても、ペアやグループでの学習を行い、協働的に課題を解決する態度を育てる。</p>		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
	<p>○保護者や地域の支援を活用し、より多様で安全な体験活動を展開する。</p> <p>○体験の前後に意見交流を行い、自分の気付きや意見を人に伝える機会をつくる。</p> <p>○自ら見通しをもち、振り返ることができる活動を積み重ねる。</p>	<p>○日常会話やスピーチを通して聞くこと、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育てる。</p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じ、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて振り返る機会を設ける。</p>		

本校の授業改善に向けて	価値ある対話の共有	発問の工夫	ICT機器の活用
	<p>○今年度の校内研究では、「自分を認め、相手を認め、主体的に思いや考えを伝え合う児童の育成」を主題とする。研究主題に迫るための手立てとして、「つなぐ」をキーワードとし、自分と他者の考え方を結び付け、より良い課題解決を目指す。</p> <p>○研究と共に研修としても位置付け若手の授業力向上、及び中堅教員の指導力向上を図る。</p>	<p>○全教員で一斉一律の指導方法の見直しを図る。児童の学習におけるPDCAサイクルを確立し、児童が学習の振り返りやシェアリングを毎時間行い、教師は授業の改善へと取り組む。</p> <p>○児童の興味関心を高め、より意欲的に課題に取り組める発問となるよう、指導計画を工夫する。</p>	<p>○chromebookの積極的な活用をすることで、単なる調べ学習の道具ではなく、意見の集約や、思考の整理など幅広い活用方法を確立する。</p> <p>○算数の授業において、全学年で指導者用デジタル教科書を活用する。働き方改革の一つとして教材準備の効率化を図るとともに、視覚的に分かりやすい指導方法を追求する。</p>